

Q. 設問2.(3)と設問3.(2)で同じような問いが記載されている

A. 以下の通り、若干ニュアンスに違いがあります。ただし、施設によっては、同じ回答(回数・投与量)になる場合も考えられます。

●設問2.(3)1)：**ヘパリン抵抗性と判断する基準**に関するヘパリンの追加投与回数及び総投与量(初回投与を含む)

●設問3.(2)1)：人工心肺開始前に**通常許容できる**追加ヘパリン投与回数と総ヘパリン投与量(初回投与を含む)

Q. 設問2.(4)①と②について

A. 「②ヘパリン初回投与後のACT値が480秒未満だった患者」には、ヘパリン初回投与後のACT値が400秒未満だった患者も含めてください。

●設問2.(4)①ヘパリン初回投与後のACT値が400秒未満だった患者

●設問2.(4)②ヘパリン初回投与後のACT値が480秒未満だった患者

Q. 設問3.(2)1)の“通常許容できる”について

A. 特別な場合を除き、許容可能な追加ヘパリン投与回数と総ヘパリン投与量(初回投与を含む)を教えてください。

Q. 設問4.(1)AT活性値の“測定の有無：あり・なし”について

A. 全症例ではなく、症例によってAT活性値の測定を実施する場合も、「あり」を選んでください。